特集・にっぽんの温泉100選

2025年度に入選した温泉地の中から注目の温泉地を紹介します。

草津温泉

景観・施設づくりで魅力アップ 若年層の観光客にも人気に

草津温泉(群馬県草津町)は、旅行会社や宿泊予約サイトのスタッフなどの投票で決まる2025年度「にっぽんの温泉100選」で23年連続の1位を獲得した。24年度には入込客数が初めて400万人を突破。25年度も26年1月末時点で329万人と前年並みのペースで推移している。

近年、若年層のグループやカップルが増え、全体数を押し上げているという。若年層の増加要因には、景観整備や施設改修による温泉街の魅力アップ、SNSや動画を駆使した情報発信の効果などが指摘されている。

若年層に限らず、散策の途中、スマートフォンやカメラで撮影したくなる観光スポットが草津の温泉街にはあふれている。主な観光エリアを紹介しよう。

裏草津地蔵の顔湯

#湯畑　草津温泉は日本三名泉の一つ。自然湧出量は日本一で毎分3万リットル以上の温泉が湧き出している。温泉街の中央に位置するシンボル「湯畑」は、毎分4千リットルが湧き、湯けむりを上げている。周囲には足湯やレトロな建物の店舗、ガス灯などがある。夜間はライトアップでより幻想的な空間になる。

#西の河原公園　河原のいたる所から温泉が湧き出す。その景観から鬼が住む場所「鬼の泉水」と恐れられ、鬼が出るので、大声を出してはいけないとの伝承がある。18年に再生事業が完了。露天風呂、灯路などを整備し、夜間を含め散策が楽しめるようになった。

#草津　地蔵　21年にオープン。湯畑エリアが表草津なら地蔵エリアが裏草津。約1万冊の漫画がある「漫画堂」、カフェ「月の貌」などがある。「伝統湯地蔵」には貸し切り温泉も。付近には足湯以外に、珍しい顔湯や手洗乃湯がある。

#草津温泉スキー場　1年中楽しめる高原リゾートを目指して、アトラクションやペットと遊べるエリアの開発などを行っているが、メインレストハウスの「天狗山センターハウス」が今年4月29日にグランドオープンを予定している。

■アクセス向上　国道17号「渋川西バイパス」の渋川西インターチェンジ（IC）―金井IC間（延長1・9キロ）が3月14日に開通。これにより関越道渋川伊香保IC周辺と、吾妻地域を結ぶ上信自動車道のネットワークが強化される。草津温泉方面へのアクセス向上にもつながる。

湯畑の春の夜景

西の河原の露天風呂

下呂温泉

ホラーゲームの舞台で迷路散策 秋に〝日本最深部の国際芸術祭〟

「日本三名泉」の一つに名を連ねる下呂温泉(岐阜県下呂市)は、2025年度の「にっぽんの温泉100選」で第2位に浮上した。2020年以降5年連続で3位内にランクインしており、旅行会社の社員が注目する国内屈指の温泉地だ。

泉質は単純泉（アルカリ性単純泉）で、リウマチや病後・疲労回復、神経症などに効能がある。滑らかな肌触りは美容や健康づくりにも優れた効果があり、女性好みの湯といえる。

三つの共同浴場で外湯が楽しめる。足湯も8カ所設置され、散策の途中で気軽に入れるのも魅力。お得な「湯めぐり手形」を購入すれば3軒で入浴することができ、旅の記念や土産にもピッタリだ。

JR下呂駅を下車してすぐの温泉街をぶらぶらしながら、食べ歩きするのもいい。飛騨牛を使った「すきやきコロッケ」やソフトクリームの上に温泉たまごがトッピングされた「温玉ソフト」、最近では「下呂プリン」も人気。

欠かせないのが飛騨牛だが、注目されているのがジビエ料理。県は「ぎふジビエ」加盟店登録制度を設けているが、下呂温泉では水明館が登録されており、絶品のジビエ料理が味わえる。

自然豊かな環境を思い切り楽しむアクティビティも充実。ウェットスーツに着替えてシャワークライミングが楽しめる小坂の滝めぐりや、東仙峡金山湖でのカヤックやSUP体験などで猛暑から解放されよう。クアオルトウォーキングもおすすめ。健康づくりのためのウォーキングコースは下呂市内に2コース設置されている。

下呂温泉は温泉やグルメ以外にも、周辺の各エリアで多様なイベントを実施している。

下呂市南西部の金山エリアでは、「筋骨(きんこつ)」と呼ばれる、細い路地が迷路のように絡み合った道をガイド付きで散策できる「筋骨めぐり」が注目されている。昨年に発売された人気ホラーゲーム『SILENT HILL f』は、同エリアが舞台となった。以降、ゲームの世界観に浸りたいファンが国内外から駆け付け、仮装や写真撮影などを楽しんでいるという。

「筋骨めぐり」の様子

また、今年の9月11日から11月8日にかけて、〝日本最深部の国際芸術祭〟として注目を集める「下呂Art Discovery2026」も開催する。2024年秋に実施したアートイベントから規模を拡大。下呂温泉街周辺はもちろん、小坂エリアでは廃校を、萩原エリアでは飛騨街道の萩原宿を活用するなど、さまざまなアート作品を展示する。下呂市長の山内登氏が実行委員長を務める、同市のビッグイベントだ。

キービジュアル

道後温泉

「日本最古の温泉」から 現代アートの魅力発信

1羽の傷ついた白鷺がお湯を見つけたとされてから約3千年。そんな悠久の歴史を持っているのが愛媛県松山市にある道後温泉だ。

その名は日本書紀や万葉集にも登場し、古来より多くの人々に親しまれてきた。特に、国の重要文化財である道後温泉本館の重厚なたたずまいは松山市のシンボルの一つとなっている。

文豪・夏目漱石も小説「坊っちゃん」の中で道後温泉を描いているが、作品に登場する湯の町の風情は、今も息づいている。浴衣姿でそぞろ歩く人、湯かごを持って入浴に向かう人―そんな風景を日常で目にすることができる。

一方、道後温泉は伝統を守りつつ、現代アートを生かしたまちづくりでも注目を集めている。2014年から始められたアートプロジェクトでは、いろいろな場所でアートが展開され、まちそのものが作品の舞台となっている。

これまで草間彌生や谷川俊太郎、蜷川実花といった名だたるアーティストが参加してきたほか、市民参加型や体験型など趣向を凝らした展開をしてきた。

この温泉とアートを融合させる試みは、経済波及効果だけでなく、若年層など新たな道後ファンの獲得やブランディングの確立という結果も生み出した。相乗効果として、作品を点在させてまちづくりを面で進めたことが、シビックプライドの醸成にもつながっている。

そして、道後アートは、今もまさに展開中だ。題して「蜷川実花 with EiM×道後温泉DOGO ART」。蜷川さんとクリエイティブチームEiMの作品を各所に展開し、色彩豊かな表現と創造でまちを彩っている。

道後温泉本館の障子には四季の花々や和傘などで彩られたインスタレーションが散りばめられ、観る者を圧倒する。ほかにも、多くの地元民が利用する椿の湯ののれんや道後商店街入り口に設えられた提灯ゲートなど、見所が満載。4月からは作品が追加されるので、飽きさせない。いつ来ても楽しめるが、何度来ても楽しめるのが道後のアートプロジェクトの魅力だ。

最古にして最先端―革新を積み重ね、伝統を築き上げてきたことで今の道後温泉がある。現状にとどまらず、温泉地でありながら温泉だけに依存せず歩み続けており、その一端がアートを生かしたまちづくりとなっている。

道後温泉本館正面玄関前

道後温泉本館北側

道後温泉　椿の湯

あわら温泉

施設それぞれに源泉 合計で74本 「よるもうで」など新企画も

福井県の最北部に位置するあわら温泉(あわら市)。農民がかんがい用に井戸を掘ったところ、約80度の温泉が湧出したのが始まりで、開湯から143年を迎える。鉄道の開通で温泉地として発展し、昭和2年には「日本百景」選定の温泉11カ所の一つにも選ばれるなど、「関西の奥座敷」として愛されてきた。

あわら温泉の最大の特徴は源泉の多さで、その数はなんと74本。源泉の集中管理を行わずに旅館施設がそれぞれ源泉を持っているため、宿ごとに泉質や源泉の温度などに微妙な違いがあり、各宿の個性を楽しめる。宿泊客には「あわら温泉満喫チケット」を使った温泉の湯めぐりもおすすめだ。

中京、関西からの団体客を多く受け入れてきたあわら温泉だが、近年は個人客に向けた取り組みも加速。まちづくり団体や観光協会が「あわら温泉屋台村湯けむり横丁」の整備やランチ・スイーツめぐりクーポンの企画など、温泉まち歩きを楽しめる仕掛けづくりをすすめ、25年度の「にっぽんの温泉100選」では23位から7位にジャンプアップするなど、旅行のプロからも注目を集めている。

昨年9～11月には、市を挙げて「あわら湯のまち　みらいプロジェクト」に取り組んだ。提灯をレンタルしてライトアップされた三薬師の神社をめぐり、シールを集めると提携店舗で特典を受けられる企画「よるもうで」や、北陸一上質な芦湯（あしゆ〈足湯〉）を併設する湯のまち広場でのカフェ出店やマルシェの実施、観光案内やまち歩きの拠点となる「湯～わくStand」の設置など、観光客も市民も歩きたくなる温泉地を目指した社会実験を行った。よるもうでは参加者の8割以上から高評価を受けたことから、今年は夏ごろから来年3月まで実施する計画だ。

北陸新幹線の敦賀延伸によって、芦原温泉駅までは大阪から最速2時間弱、東京からは乗り換えなし3時間弱でつながったあわら温泉。県内随一の人気を誇る県立恐竜博物館には車で約1時間、温泉街から直行バスも運行する。県内外への好アクセスから北陸観光の拠点としても便利だ。

2月にはRakuten STAYあわら温泉が開業、昨年11月には市と星野リゾートが連携協定を締結した。市内の遺跡「宮谷石切場跡」が神秘的なスポットとして注目を集めるなど、新たな動きもあり、あわら温泉からまだまだ目が離せない。

あわら温泉の「芦湯」

三薬師をまわる「よるもうで」

稲取温泉

絶景の露天風呂や新鮮な魚介 海水浴、花火、金色の草原も魅力

静岡県東伊豆町にある稲取温泉は海岸線に小さく突き出た岬に位置し、伊豆大島と太平洋を望むロケーションで、絶景の露天風呂と、稲取や近隣の漁港で水揚げされる新鮮な海の幸が温泉地最大のセールスポイントとなっている。ほかにも「雛のつるし飾りまつり」等の歴史のある伝統行事を目当てに訪れる常連客も多いという。

7月18日には「磯　SeaGarden　IKEJIRI」が待望の海開きを迎える。磯SeaGardenは温泉街に近い池尻海水浴場と海浜プールの総称。池のような形に、岩に囲まれた海水浴場のため波の侵入が少なく、小さな子供も安全に遊べることからリピーターが増えている。スノーケリングで色とりどりの魚を観察したり、岩場のカニやエビを捕ったりなど、砂浜ではできない体験が売りとなっている。潮位が深かったり、海が苦手な子は、隣接する海浜プールでも楽しめる。同エリアで毎年開催されている「さざえのつかみ捕り大会」も大人気だ。今年は7月27～29日に開かれる。

夏の恒例行事、花火大会は7月20日から5日間、8月24日から5日間と合計10日間の開催。打ち上げ場所は旅館の稲取銀水荘前と池尻海岸サンライズテラス、稲取漁港の3カ所。それぞれ午後8時30分から10分間、約300発を打ち上げる。

稲取温泉の俯瞰写真

磯　SeaGarden　IKEJIRI

秋に訪れたい観光名所として、「未来に残したい草原の里100選」にも選ばれた稲取細野高原がある。伊豆半島の最高峰とされる天城連山と、広大な相模湾に浮かぶ伊豆諸島を望む東伊豆随一のパノラマスポットだ。群生するすすきが10月から穂を出し東京ドーム26個分に相当する125ヘクタールもの草原が、黄金色に色づき幻想的な景色を作り出す。今年の「秋のすすき鑑賞会」は、10月からの約1カ月間開催される。

雛のつるし飾り発祥の地である稲取の早春のイベントといえば、例年1月20日から3月末まで開催される「雛のつるし飾りまつり」だ。隣町の河津桜まつりと同時期の開催で、多くの観光客でにぎわい、「文化公園雛の館」をメインに4会場で開催される。中でも最大の注目が素盞嗚神社雛段飾り。素盞嗚神社ではひな人形の展示段数日本一とされる118段にひな人形とつるし飾りを展示している。厳かな神社の雰囲気と色とりどりの華やかなひな飾りが織りなす光景は圧巻で、訪れる観光客を魅了している。

2027年の「雛のつるし飾りまつり」は30周年という節目を迎えるため、さまざまな企画を計画しており、雛のつるし飾り発祥の地としてさらなる発展が期待される。

上諏訪温泉

「諏訪湖の花火」と 「霧ヶ峰高原」を満喫

長野県の中央に位置する諏訪市は精密機械メーカーの集積地として知られる一方、信州最大の湖である諏訪湖に代表されるリゾート地としての顔も併せ持つ。その代表格は温泉で、諏訪湖畔にある「上諏訪温泉」は、豊富な湯量を誇る県を代表する温泉地となっている。

市内には数カ所の源泉があり、泉質は肌にやさしい弱アルカリ性。観光経済新聞社が主催する「にっぽんの温泉100選」の2025年の総合順位は過去最高の第24位に。数多くの温泉地を抱える長野県の中で最高位となった。

上諏訪温泉といえば花火を思い浮かべる人も多いだろう。春の到来を告げる「上諏訪温泉春の花火2026」は桜の季節にあわせて春らしい色の花火を4月10日～12日、3日間限定で打ち上げる。夏休み期間の約1カ月間開催される「諏訪湖サマーナイト花火2026」は、7月24日～8月23日（8月15日を除く）に開かれる。期間中は毎晩、午後8時30分から10分間、花火が上がる。

昨年、分散方式に変更して6年ぶりに復活した全国新作花火競技大会。今年も「全国新作花火チャレンジカップ2026」として開催する。開催日は予選が9月の毎週土曜日の4回、決勝が10月の最終土曜日となる。

諏訪湖でのアクティビティも充実している。諏訪湖周には1周16キロメートルのサイクリングロードとゴムチップ舗装のジョギングロードが整備されており、多くの人々が楽しんでいる。市内にはレンタサイクル店があり、大人から子供までさまざまなタイプの自転車を用意しているので、大変便利だ。

諏訪湖上でのコンテンツもたくさんあり、さまざまな体験が可能。諏訪湖を船で巡る「観光遊覧船」は湖上から周囲の山々の眺望が楽しめ、「水陸両用バス」では湖周観光地への周遊と諏訪湖へのダイブで新感覚な興奮を味わえる。「カヤックツアー」や「足漕ぎスワンボート」も人気。カヤックはインストラクターが丁寧にレクチャーしてくれるので初心者でも安心・安全だ。

諏訪湖と並び訪れたい景勝地として霧ヶ峰高原がある。高原を駆け抜けるビーナスラインのルート上に位置し、霧鐘塔や薙鎌神社からは絶景を楽しむことができる。春から夏のシーズンには高山植物の美しい花が咲き競い、多くの観光客を魅了する。

「長野県霧ヶ峰自然保護センター」では、そこでしか見られない動植物や地質、歴史などを実物や写真パネルで紹介。眺望が良いテラス、霧ヶ峰の魅力を紹介する映像コーナーも設けている。

諏訪へのアクセスも改善された。昨年7月に待望の諏訪湖スマートインターチェンジが開通。諏訪湖を一望できる諏訪湖サービスエリアに設置され、湖畔に直結し上諏訪温泉まで10分強。諏訪インターチェンジと組み合わせ、ビーナスラインと諏訪湖を周遊するコースを楽しむことができる。

露天風呂から見る花火

霧ヶ峰高原のコバイケソウ